

## 4. 関連資料

## 1) 黒田チカの評伝など

(保存状態)

- Ku-4001 前田侯子, <特別寄稿>黒田チカ先生の生涯と研究,  
お茶の水女子大学女性文化資料館報, 7, 77-96 (1986.9)
- Ku-4002 前田侯子, 黒田チカ-天然色素研究における業績とわが国初の女性化学者  
としての生涯, 化学史研究, 22, 226-238 (1995.11) (別刷)
- Ku-4003 林太郎, 黒田チカ博士, 化学の領域, 6, 438-439 (1952.7) (別刷)
- Ku-4004 岡嶋正枝, 黒田チカ先生のこと, ばれるが, 304, 8-10 (1977.8), 評論社 (別刷)
- Ku-4005 豊増幸子, 黒田チカ, 郷土史に輝く人びと (第10集) 森永太郎 黒田チカ,  
79-152 (1978.12) 佐賀県青少年育成県民会議 (単行本)
- Ku-4006 郷土に光輝く女性理博—黒田チカ— (佐賀の歴史散歩欄), 著者出典年号不明 (コピー版)
- Ku-4007 長島譲, 黒田チカさん, 市川源三他編, 日本女性文化史 下, 359-361 (1939),  
明治図書 (コピー版)
- Ku-4008 長島譲, 黒田チカ女史, 女博士列傳, 30-41 (1937.7), 明治書院 (コピー版)
- Ku-4009 黒田チカ女史—女博士列傳 (3), 科学知識, 15, 706-707, 上記と同文 (コピー版)
- Ku-4010 香川ミチ子, 女性科学者の先駆・黒田チカ, 自然, 24, 60-63 (1969.1) (コピー版)
- Ku-4011 板橋宏子, 黒田チカ先生とのこと, 伊達たまき先生, 12-14 (1994), 創英社 (私家版) (単行本)
- Ku-4012 板橋宏子, 黒田先生と洋服, 伊達たまき先生, 102-104 (1994), 創英社 (私家版) (単行本)
- Ku-4013 東京女性財団編著, 黒田チカ, 先駆者たちの肖像, 100-101 (1991) (コピー版)
- Ku-4014 ジョジョ企画編, 黒田チカ, 女たちの20世紀・100人 姉妹たちよ, 49 (1999), 集英社 (コピー版)
- Ku-4015 黒田関連記事 日本婦人科学者の会 ニュース, 8 (1964.5) (別刷)
- Ku-4016 黒田チカ先生追悼号 日本婦人科学者の会ニュース, 13 (1969.3) (別刷)
- Ku-4017 黒田チカ先生追悼 (上記の抜粋), 弔辞: 日本婦人科学者の会代表 溝口歌子, 年譜,  
黒田先生の思い出: 香川みち子 (別刷)
- Ku-4018 黒田吉男より会葬御礼 1968. 11. 15

## 2) 黒田チカに関する新聞記事(大正5~10年 父・黒田平八による切抜き)

ここに掲載した大正5~10年の間の新聞記事は、チカの父・平八によってスクラップされたものである。現在、その原本は養子(甥)黒田吉男氏が保管している。  
以下に載せるリストは、遺族の了解のもとに佐賀大学から寄贈していただいたカラーコピー版をもとに作成したものである。その一部を画像(\*印)にて掲載した。

- Ku-4101 大正5年6月18日大阪朝日新聞「最初の女理學士 卒業したら大學院で研究」
- Ku-4102 大正5年6月20日 西肥日報「女學士と女醫師 二人とも佐賀出身」
- Ku-4103 大正5年6月 西肥日報 大正5年6月21日 佐賀日日新聞  
「佐賀が産出した才媛 日本開闢以来の女理學士」
- Ku-4104 大正5年6月 佐賀新聞 大正5年6月25日 佐賀毎日新聞  
「黒田女史の家 初めて女の理學士を出す譽れと喜び」
- Ku-4105 大正5年7月 大阪朝日新聞「東北大學卒業式 初ての女理學士」
- \* Ku-4106 大正5年7月 国民新聞「暗闘(だんまり)3年 大學を出るまで 新女學士の苦衷」
- \* Ku-4107 大正5年7月 時事新報「兩女史の見た女の學士=婦人教育界の意見は何と云ふ=」
- Ku-4108 大正5年7月18日 東京日日新聞「日本で初めての女理學士の喜び=昨日卒業證書を手にして兩女史いそいそと感想を語る=」
- Ku-4109 大正5年7月21日 西肥日報「我國最初の女學士 黒田女史感想談 牧田女史も斯う語る」
- Ku-4110 大正5年8月5日 佐賀日日新聞「歸省せる女理學士 黒田女子は語る」
- Ku-4111 大正5年9月 佐賀日日新聞「黒田女史祝賀會」
- Ku-4112 大正5年9月13日 東京朝日新聞  
「女理學士を招待(昨夕精養軒で祝賀會—兩女史再び東北大學へ)」
- Ku-4113 大正5年10月 西肥日報「女理學士は男子に劣らぬ成績を擧ぐ」
- Ku-4114 大正6年5月 西肥日報「婦人博士の候補 佐賀市出身黒田女史」
- Ku-4115 大正6年5月 医学時報「女子と學位」
- Ku-4116 大正6年8月 西肥日報「女理學士が古代紫の研究 東北理科大学の研究室で」
- Ku-4117 大正7年9月 報知新聞「母校で教鞭を執るべく上京した黒田女理學士」  
写真:上澁谷義兄の宅にて
- Ku-4118 大正7年9月 東京朝日新聞「上京した・・・女理學士=黒田ちか子女史は語る」  
写真:東京に着いた夕べの理學士黒田ちか子女史
- Ku-4119 大正7年11月 西肥日報「婦人理學士 黒田女史帝大會議室にて」
- Ku-4120 大正7年11月 佐賀毎日新聞「黒田女史の初講演 博士達を前に研究發表」
- Ku-4121 大正7年11月 佐賀毎日新聞「神宮の布を染むる古代紫の研究 黒田女史の發表」
- \* Ku-4122 大正7年11月 東京朝日新聞「堂々たる博士連を前に女學士の初講演」
- Ku-4123 大正7年12月4日 西肥日報「黒田女史の消息 四月から女子高師教授」
- Ku-4124 大正8年1月 西肥日報「第一人者の一人」
- Ku-4125 大正9年10月7日 佐賀毎日新聞  
「官費留學に決した黒田女理學士 古代紫の究明者で女留學生は七年振」
- \* Ku-4126 大正10年3月2日 新聞名不明「女理學士の洋行=黒田ちか子女史の送別宴」

## 暗闘三年

### 大學を出るまで

#### 新女學士の苦衷

十七日仙臺の東北大學卒業式で我國開闢以來最初の女學士が二人出來た。二人とも理學士で、其一は黒田ちか子(一)は化學專攻他の一人は牧田くら子(二)は數學專攻である。

▲理學士黒田ちか子▼  
黒田は佐賀縣の生れ、小學時代には京都府より何れも讀書が好きで、郷里の師範學校へ入學してからは益々其讀書を愛し文學が何れも好きになつた。併し一度會社に小説を執筆し居る事を知れられ、之を禁ぜられて以來はふつと断念してお茶の水の女學高へ入學の際も理學を希望學科とするに至つた。即ち女史が今同輩學士の冠を戴くに至つた。原因の一つは郷里の先生から興へられた無理な禁令でもあつた。「小説を禁じられた時は烈しい一種の失望のために將來の奮闘心も鈍り高等學を志す氣にもなりません」と女史は語つた。

▲理學士牧田くら子▼  
女史「京都の資産家の娘で、小學時代から學問には非凡の才を認められ、同地府立第一高等女校に入學後益々其天才を發揮し、師範科へも之は屢ば舌を捲いたさうである。同校卒業後直ちにお茶の水の女學高に入り更に研究科を修め同校助教授奉職中、即ち大正二年の秋始めて東北大學が女子の入學を許可すると聞いて女子入學者望者廿七名中の一人となり合格者三名の中の一に選ばれたのであつた。

#### 男學生の排斥

兩女史が大正二年九月愈々東北大學の學生となつた時、男學生一殊に同級の男學生の女史等に對する空氣は決して穏でなかつた。故參の學生等は「女子と合同では學課の程度が自然低くなる恐れがある。又男女學生の合同研究には生理上體質上の障害が多からう。而しならず女子の漸大入學は時期尚早」と云つて女史等を歡迎する意氣はなかつた。殊に同級の男學生等は「彼友會の場合などでも何うも女子が交つてゐては全體の調和がうまくない。殊に教室内に於ける女學生の姿は注意力を放漫ならしむる憂ひがある」と云つて竟に級友會で女子排斥を決議して、其の代表者は小川理科學長に面談の上「現在の女子在學生は致方なきも將來は女子の入學を禁せられ度し」と其理由に數多の實例を擧げて力説した。其主張極めて眞摯で、其には學長始め學生諸君も耳を傾けた。其が爲かあらぬか、其後今日迄三ヶ年間一人として女子の東北帝大に入學する者がない。之には尙外に色々の事情もある様だ。

#### 暗闘の競争で

こまかくこんな有様で兩女史は入學後半年餘ならざるに忽ち孤立の姿に陥り、殆んど全修業年限の三ヶ年は男學生と暗闘の競争で過した。而して今同輩男學生に比し決して遜色なき成績で卒業し更に大學院に進むべしと云ふは婦人界空前の誇りかも知れない。併し兩女史と共に入學せる日白の女子大學家政科出身丹下うめ子(三)女史の不幸過度の研究に中途休學の止むなきに至つたのは悲しむべき反省を促す事である。




史女子らく田牧      史女子かち田黒

Ku-4106 大正5年7月 国民新聞

## 兩女史の見た女の學士

### 婦人教育界の意見は何と云ふ

下田女史は曰く「斯うした人達だけに大に獎勵すべき事。失禮女史は曰く「女の傑出したる道を行く道に勵むべき事。數年前東北大學が門戸を開放して、試みに婦人の入學を許すことになり、遂に既報の如く此の十七日を以て牧田兩女史が本邦始めての理學士として打つて出た。之に就て婦人教育界の人々は如何に之をみるか、斯界の權威たる下田、矢嶋兩女史の意見を聞いて見る。

#### 天賦の才能を持つた人のみ

「下田女史は斯く語る」  
「私に一般國民としての女子に授ける所謂普通教育は勿論時代に適應する云ふ條件の下に、淺くても廣くは望まれません、それは女は

#### 一人でも多く

「矢嶋女史は斯く語る」  
「今度の事は大に僥ふべきと思ひます、斯うなければ女子、否社會の進歩は望まれません、それは女は

#### 物を言ふ品物

「物言ひ品物」のやうに取扱つて居る、或る程度多量の男子の爲めに、女子の儂くなることは面倒なとせう、然しそんな考へでは、何時になつても愛しい人間は出ない。何うか之れからは女子の傑出して行く道を邪魔共に、進まうとする人心を、いくら警告せぬやうにして貰ひたい、單に理學士のみならず、文學士可なり、醫學士可なり立派な女の一人でも多く出るとを私は望みます、次に女子の最高教育は

#### 婚期が後れる

「云ふことを問題にする人もあるが、なほに女は四十歳に達しても、立派な女子を生むことが出来る、又一面から論じて最高知識を出るが爲めに、獨身生活をする婦人が出る云ふ事も好い事であるが之は今日女子には未だ全くの杞憂である

#### 女子の進歩

「云ふ側から見て、秩序ある修練を多方面に探得したいが爲めに、獨身生活をする婦人が出る云ふ事も好い事であるが之は今日女子には未だ全くの杞憂である

Ku-4107 大正5年7月 時事新報

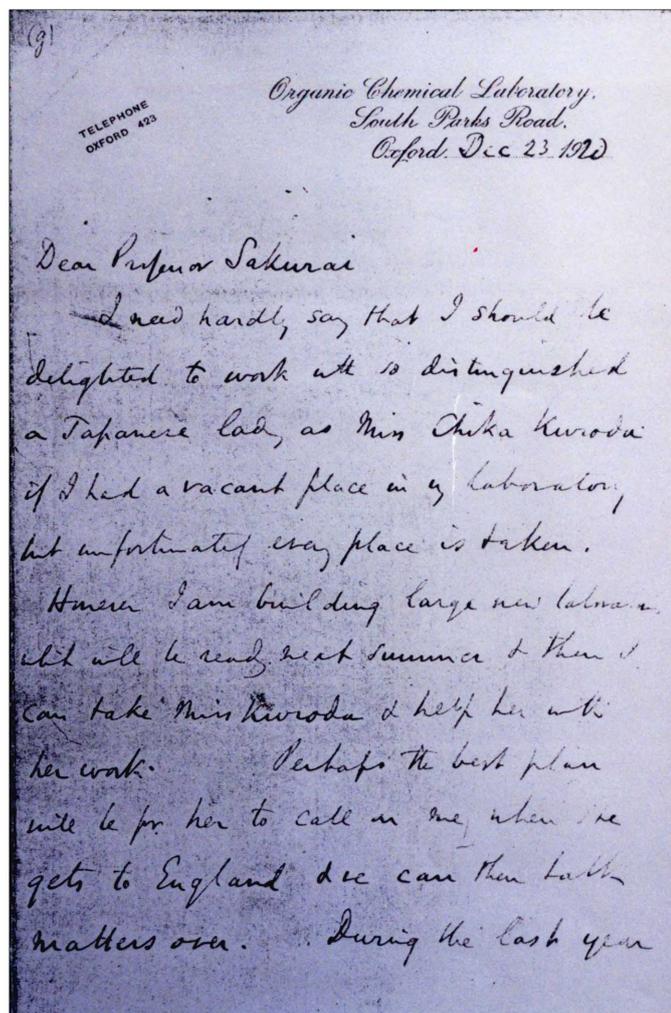


### 3) 黒田チカの名前のある記事

Ku-4 2 0 1	山下愛子, 日本女性化学者たち, MO L, 昭和42年1月号, 109-110 (1967)	(コピー版)
Ku-4 2 0 2	関根照子・山下愛子, 科学と女性, MO L, 昭和43年9月号, 94-97 (1968)	(コピー版)
Ku-4 2 0 3	青山なを, 明治女学校の研究, 46 (1970), 慶応通信	(コピー版)
Ku-4 2 0 4	吉村証子, 日本における女性科学者の歩みとその背景, 津田塾大学紀要, 1, 16-29 (1968)	(コピー版)
Ku-4 2 0 5	第4章 化学科, 東北大学50年史, 635-643 (1985)	(コピー版)
Ku-4 2 0 6	毎日新聞仙台支局編著, 女子大生, 東北大学, 10-25 (1985)	(コピー版)
Ku-4 2 0 7	黒田チカ, 山下愛子編, 近代日本女性史 4 科学, 67-69 (1970), 鹿島研究所出版会	(単行本)
Ku-4 2 0 8	新聞記事 昭和44年10月25日 読売新聞「大学生三代のあゆみ」	(コピー版)
Ku-4 2 0 9	新聞記事 昭和46年3月30日 読売新聞「明治の四当五落」松・桜・蓮」	(新聞切抜)
Ku-4 2 1 0	新聞記事 平成10年7月4日 日本経済新聞「ラジウム発見100年を 機に 業績後世に正しく 女性研究者の活躍に注目」	(コピー版)
Ku-4 2 1 1	新聞記事 平成11年1月31日 西日本新聞佐賀版「紅, 紫 色素研究に生涯」	(コピー版)

## 4) その他 関連資料

- Ku-4301 パーキンの手紙 桜井譲二宛 黒田留学承諾の件 1920年12月23日 (コピー版)
- Ku-4302 ポスター 第1回黒田チカ賞 1998年度 推薦受付  
青葉理学振興会の事業の一つで東北大学大学院理学研究科博士課程在籍  
女子学生対象の賞
- Ku-4303 青葉理学振興会黒田チカ賞 授与規程
- Ku-4304 書類「理科ノ學科課程等ニ関シ改正ヲ要スル点」 2枚 筆者及び日付不明
- Ku-4305 1.「学生実験(有機化学)に化学史を生かす」佐賀大学 堀勇治, 1986年10月  
2.「むらさき物語」佐賀大学工業化学科紹介文の中に黒田の研究が紹介されている。



Ku-4301 パーキンの手紙

## 5. 実験資料

### Ku-5001 研究業績標本

むらさきの根(紫根)に含まれる色素  
(シコニン)の研究  
[大正5年~大正7年]

紅花に含まれる色素(カーサミン)の  
研究[大正13年~昭和4年]

シコニン結晶と構造式, カーサミンの  
結晶と構造式, むらさき, べにばな(ド  
ライ), 紫根染布



### Ku-5002 研究業績標本

天然色素化学構造業績  
[昭和6年~昭和11年]

ナスニン, シソニン, アオバニン, ク  
ロマミン(茄子の皮, 紫蘇の葉, 青いつ  
ゆ草の花, 黒豆の皮から結晶として得  
られた色素)の構造式, それぞれの色素  
塩化物結晶写真, アルコール溶液等



### Ku-5003 研究業績標本

ウニの刺に含まれる色素(スピノクロム)  
の研究  
[昭和14年頃から始められ, 共同研  
究者岡嶋正枝氏に引き継がれた]

日本産ムラサキウニ, アカウニ, バフン  
ウニ, 南太平洋産のパイプウニの実物標  
本, それぞれの刺から得られたスピノク  
ロムの結晶写真, 色素のエーテル溶液等



**Ku-5004**

紅花関係展示標本  
乾燥紅花，紅染色布，カーサミン  
(サンプル瓶入り)



**Ku-5005**

紅花乾燥花卉  
大小の試薬瓶



**Ku-5006** 紅花餅 瓶入り

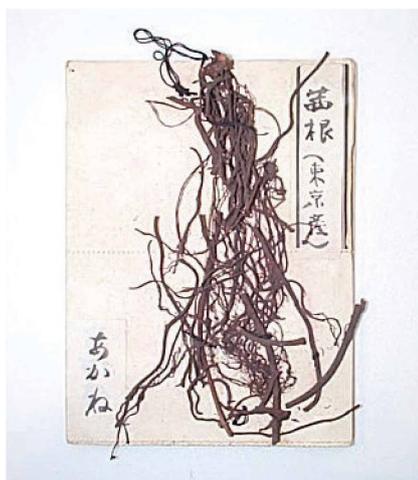


**Ku-5007**

紅 御猪口についたもの  
(山形紅花振興会から購入)



**Ku-5008** 茜根標本



**Ku-5009**

玉葱外皮色素  
小濾紙に付着した黄色粉末 (小試験管入)



実験材料、実験中間生成物及びその他内容不明のもの多数

(お茶の水女子大学理学部化学科の実験室に残されていた実験関連の品々)

